

挑戦、改革、実行力 古い政治を変える。 私の誓い

埼玉県議会議員 さいたま市浦和区 浅野目義英



「攻撃目標」はどうか？

私が仕事をさせていただいている、地方議会は二元代表制といわれる。長も議員も別々の選挙で選ばれてくるから、言わば大統領制の形態だ。「議会は長(執行部)の独善を指摘し、その暴走・独走を阻止することに役割がある」。よく言われることだ。つまり、議院内閣制である国政の与党・野党という役割は存在せず、議会はすべてが野党という認識だ。長(執行部)こそが「攻撃目標」で、そことの緊張関係を保つということが、認識の前提ともされている。世間でよく言われているし、教科

書にも書かれている。けれども、これが間の抜けた認識になっていて、場合がある。むしろ実は、「攻撃目標」が議会自体に存在してしまっていることを、思い知らされることが多くある。議会全体の改革さえ議会自身が進んでいない状態に遭遇することが多々あり、私は辟易している。

埼玉県議会の委員会は、基本的に10人までしか傍聴ができない。同議会本会議場では、野次と怒号が飛び交うことがあり、議論が正常に聞き取れないことがある。この様子は、こんな時代なのに予算特別委員会を除き、ネットもテレビも放映されて

いない。「埼玉県議会だより」は、こんな時代なのに発言者が誰なのか分からない。同議会は、国の地方交付税の削減に呼応して、職員給与を削減することに賛成したのに、県議会議員報酬の削減には反対した。絶句に値する認識錯誤と怠慢だ。改革を求められていることが遅々として進まない。つまり、地方議会の実態は、「攻撃目標」が議会全体に存在してしまっている。という新しい認識を持つことが必要だ。この「攻撃目標」とは、守旧派であり守旧思想であろう。丁寧に勇気をもって挑まなければならない改革への作業だ。

必ず実現させる 気概を持つ

「できない」と初めから思わないようにしている。「きつとどうにかすれば出来るはずだ」いつもそう思っている。

中途失明した全盲の中学校教員を現場に戻す提案は不可能、話にならないと言われた。しかしどうだろう。彼は秩父長瀬の中学校で堂々たる素晴らしい授業をしている。どんな人にもチャンスがあり最高のステージをつくることができる。そして生徒は差別を拒む心を持つことだろう。好ましいことと信じられる。
ある自民県議から「県会議員が領

「政治は遠い、特に県政は遠い」を変えたい

「政治家は何をやっているかわからない」と言われる。日常的に、なぜ賛成したのかまた反対したのか説明しなければならぬ。課題の本質は何なのかについて議員自らの考え方を表明する必要があるのである。

それらの作業をしない者はこの世界から去らなければならない。人々の声に耳を傾けようと人の輪の中に好んで入らない者も去らなければならない。冒頭でも書いたが、首長との対決ではなく地方議会が、政策領域を分担していく時代が近づいているのではなからうか。

横浜市議会は「財政責任条例」をつくった。市長は「基本計画」で財政運営の目標を設定し、目標達成の取り組みを定めると明記されている。また、取り組みの進行状況を議会へ報告するとされている。議会も検証して財政運営健全化の責任を共有するという訳だ。

新時代の地方議会のシンボリックな形態であると私は認識している。首長の執行権に立ち向かうことであ

万機公論に決すべし

けれども、埼玉県議会では、国会論争を持ちだして他政党会派を罵倒したり、知事に党利党略で不毛なバトルをぶつける日常が頻発している。もはやそのようなことをしている場合ではないのではと断言できる。

現任期である平成27年5月臨時会以降、埼玉県議会では、31件もの決議が可決された。

関東近県でこれに次いで多いのが東京都の16件、続いて神奈川県7件だ。埼玉県が決議を乱発している状況が見て取れる。しかも、このうち7件が上田知事などに対する問責決議などの性質のものであり、決議の政治利用と言っても過言ではない。

一般的に、議会の機関意思を示す決議は全会一致が望ましいとされており、さきに挙げた東京都でも16件の決議のうち14件が全会一致で可決されている。しかし、埼玉県では31件の決議のうち、全会一致だったものは半分以下の15件でしかない。埼玉県議会では、多数会派が数を

ない。議員は、議決すること、議決しないことの責任の強い自覚を持たなければならぬ。四期目に挑戦するに当たり、改めて誓いたい。



埼玉県は明治4年から133年間ずっと今の位置にある。しかし、浦和区民に親しまれてきたかと考えると大いなる疑問だ。「身近に感じられ、賑わいを創出でき、気軽に訪れられる埼玉県庁をつくれぬか」と強く訴えてきた。埼玉県庁が埼玉県民のものになれるかどうかの壮大な実験のように思われた。6400㎡の緑の広場が完成し、多くの方々の憩い、新鮮な県産野菜を買い求める朝市が開催され、犬や猫の殺処分を防ぎ命を紡ごうと譲渡会が催され、ウォーキングする方が行き交っている。

すべてが不可能ではなかったのだ。丁寧な作業と必ず実現させる気概を持つことが政治家には必要であると、思っている。

2018年

2018年Facebookより
埼玉県議会議員

あさのめ 活動報告

昨年一年間もお支えを賜りながら一生懸命に仕事することができました。ありがとうございます。



01/16 埼玉新聞社新年会鏡開き



02/01 教え子と同窓会



03/06 日本青年遺骨収集団役員と



03/11 専門学校卒業式



04/04 埼玉県庁にAIロボットが登場



06/09



06/09

06/09 あさのめ県政報告会

【議会活動の報告をすることは当然の義務です】埼玉会館で、「第15回あさのめ県政報告会」を開催しました。



10/07 運動会



10/12 知事へ会派予算要望を提出



10/04 「議会改革の推進を求める要望書」



08/19 テレ玉出演

テレ玉『こんにちは県議会です 各会派代表者に聞く』に出演。埼玉県議会、埼玉県政、時代認識などについて、お話をさせて頂きました。



07/29 埼玉県原爆死没者慰霊式

【流れゆく時代。被爆者の記憶を次世代へ継承する】埼玉県原爆死没者慰霊式に参列しました。埼玉県にも原爆被爆者は少なくない数いらっしゃいます。今年亡くなられた76柱が加えられ、1529柱の原爆死没者名簿が奉納されました。被爆者健康手帳の所持者は、県内に1792人。



07/26 新潟市航空産業立地推進室へ「アジアを代表する最先端の航空機エンジン事業の拠点」が巨大なスケールで、埼玉県に整備されます。先立ち調査。



10/27 野球大会始打式



11/04 浦和区民まつり



11/14 県民の日式典



11/22 あさのめ県政報告会



トーチ共和国大使が駆けつけてくれる



12/09 UdacSaitama主催「みんなで話して社会を変えよう」に出席



浅野目義英プロフィール

1958年5月27日東京生まれ。山形県米沢市育ち。法政大学社会学部卒。小学校教員を経る。さいたま市隣接の上尾市で全国最年少の25歳で市議初当選。地縁血縁の無い中で市議連続4期当選(25~41歳)。1995年、37歳で全国最年少議長。上尾市長選挙次点敗退。予備校講師、鮎井屋でひたすらマグロを切る仕事、武正公一代議士政策秘書など、政治浪人7年余を経る。2007年、埼玉県議会議員トップで初当選。2015年、埼玉県議会議員トップで3期目当選。埼玉県庁の中に6,400㎡の緑の広場をつくらせる、全盲の中学校教師を現場に戻す、硫黄島から帰還するご遺骨を入間航空基地で知事に出迎えをさせるなど、必ず成果を上げる実力派県議として知られる。2018年、立憲・国民・無所属の会代表。

埼玉県議会 あさのめ事務所
〒330-0043 さいたま市浦和区大東 1-11-1-501
TEL048-883-6560 FAX048-881-0527
y-asanome@gikai.pref.saitama.jp
www.asanome.com
【浅野目義英】【埼玉県議会議員浅野目義英】



12/24 そろばんクリスマスカップで日本一を表彰



2018.11.29 「たくたくvol.70」 11/29 ラジオ与野出演 政治、選挙、くらしなどについてお話をさせて頂きました。



2018.11.29 「たくたくvol.70」

